

7 本時案（4時）

本時の目標	自分に合った場を選びながら、幅の広い場所を跳び越すための跳び方を工夫することができる。	
学習活動		教師の支援と評価（◎）
1 準備運動をする。 用具 【島】ケンステップ、長縄、マット、ウレタンブロック 【障害物】ハードル型障害物、段ボール箱、ゴム 2 試しの運動遊びをする。  ゴールの前が広いから、遠くに跳ばないと落ちちゃうよ。 規則 ・落ちてはいけない。 ・当たってはいけない。 3 問いを共有する。  落ちずに、向こうまでどうやって行くな？ 問い 遠くに跳ぶにはどうすればいいかな？ 4 島跳び遊びをする。 《児童のめあてと意識の流れ》  (A児の例) 跳び箱の上から、跳んでみよう。 (B児の例) 跳ぶときに、踏切板を強く蹴ってみよう。 (C児の例) 走ってから跳んでみよう。 5 気づきを共有し、試す。  どうしたら、遠くに跳べたかな？ 腕を振ったら遠くまで跳べたよ。 片足で跳んだほうが、跳びやすかったよ。 跳ぶ前に走ったら、勢いがついたよ。 Cさんみたいに、走ってから跳んでみようかな。 片足跳びを続けてやってみたいな。 もっと広い所を跳んでみたいな。踏切板をもう少し離してみよう。 6 スペシャルジャンプをして、まとめとする。  走って跳ぶ時も、腕を上 に振ったら、勢いがつい て遠くに跳べたよ。 両足より、片足で跳んだ 方が遠くまで跳べたよ。 踏切板まで走って、止ま らずに跳んだら、向こう まで行けたよ。 7 振り返りをする。		○ 試しの運動遊びを行うことで、前時との場の違いを体感し、動きを通して問いを確認することができるようにする。 ○ ゴールの前に幅の広い場所を準備し、どうやって落ちずに向こう側まで行くかを問うことで、本時のめあてをもつことができるようにする。 ○ 場の安全について確認し、きまりを守って学習することができるようにする。 ○ 跳ぶことに抵抗のある児童には、距離を変えて簡単な場を用意することで、意欲が続くようにする。 ○ 腕を振ったり、助走をつけたりしながら跳んでいる児童を称揚することで、自信をもって活動できるようにする。また、周りの児童も自分の跳び方に取り入れながら、跳び方を工夫できるようにする。 ◎ 両足や片足で踏み切って、前方に跳ぶことができる。(知識及び技能) ○ うまく跳べない児童には、跳ぶ前に助走や勢いをつけるようにアドバイスをすることで、跳び方を工夫できるようにする。 ○ どうすれば向こう側まで跳べたかを問い、工夫した跳び方のポイントを共有することで、児童が自分自身の跳び方に取り入れることができるようにする。 ○ 児童が自由に足場や障害物の位置や向きなどを変えることで、さらに多様な跳び方を経験することができるようにする。 ◎ 自分に合った場を選んだり、友達の跳び方の良いところを見つけたりしようとしている。 (思考力、判断力、表現力等) ○ 学習の振り返りを行うことで、跳び方を工夫する楽しさに気づき、次時の活動への意欲をもつことができるようにする。

--	--